待降節第４主日礼拝説教「あなたが祝福される理由」予稿

日本基督教団石神井教会　2025年12月21日

【旧約聖書日課】サムエル記上　2章1～10節

1ハンナは祈って言った。
「主にあってわたしの心は喜び
主にあってわたしは角を高く上げる。
わたしは敵に対して口を大きく開き
御救いを喜び祝う。
2 聖なる方は主のみ。
あなたと並ぶ者はだれもいない。
岩と頼むのはわたしたちの神のみ。
3 驕り高ぶるな、高ぶって語るな。
思い上がった言葉を口にしてはならない。
主は何事も知っておられる神
人の行いが正されずに済むであろうか。
4 勇士の弓は折られるが
よろめく者は力を帯びる。
5 食べ飽きている者はパンのために雇われ
飢えている者は再び飢えることがない。
子のない女は七人の子を産み
多くの子をもつ女は衰える。
6 主は命を絶ち、また命を与え
陰府に下し、また引き上げてくださる。
7 主は貧しくし、また富ませ
低くし、また高めてくださる。
8 弱い者を塵の中から立ち上がらせ
貧しい者を芥の中から高く上げ
高貴な者と共に座に着かせ
栄光の座を嗣業としてお与えになる。
大地のもろもろの柱は主のもの
主は世界をそれらの上に据えられた。
9 主の慈しみに生きる者の足を主は守り
主に逆らう者を闇の沈黙に落とされる。
人は力によって勝つのではない。
10 主は逆らう者を打ち砕き
天から彼らに雷鳴をとどろかされる。
主は地の果てまで裁きを及ぼし
王に力を与え
油注がれた者の角を高く上げられる。」

【福音書日課】ルカによる福音書　1章39～56節

39そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。40そして、
ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した。41マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、
その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、42声高らかに言った。「あな
たは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。43わたしの主のお
母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。44あなたの挨拶の
お声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。45主がおっしゃったこと
は必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう。」
46そこで、マリアは言った。
47「わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
48身分の低い、この主のはしためにも

目を留めてくださったからです。
今から後、いつの世の人も
わたしを幸いな者と言うでしょう、
49 力ある方が、
わたしに偉大なことをなさいましたから。
その御名は尊く、
50 その憐れみは代々に限りなく、
主を畏れる者に及びます。
51 主はその腕で力を振るい、
思い上がる者を打ち散らし、
52 権力ある者をその座から引き降ろし、
身分の低い者を高く上げ、
53 飢えた人を良い物で満たし、
富める者を空腹のまま追い返されます。
54 その僕イスラエルを受け入れて、
憐れみをお忘れになりません、
55 わたしたちの先祖におっしゃったとおり、
アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」
56マリアは、三か月ほどエリサベトのところに滞在してから、自分の家に帰った。

クリスマスの挨拶【こども説教のために】

待降節（アドヴェント）の第四のロウソクを灯しました。今週、わたしたちは、最後に残された「降誕のロウソク」を灯します。御子のご降誕を祝うときを迎えるのです。

世界中の教会と共に迎えるご降誕の祝いの日には早いのですが、今日、わたしたちは、クリスマスの挨拶を交わしましょう。

気が早いと思う方も、安心してください。「聖書」が伝えるご降誕の物語では、御子がお生まれになる前から、喜びの挨拶が始まっているのです。御子の母マリアに、「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」（ルカ 1:28）と挨拶したのは、天使ガブリエルでした。その挨拶を聴いたマリアは、親類のザカリアの家に出かけて行って、エリサベトに挨拶しました。どのような言葉で挨拶したのか分かりませんが、マリアの挨拶を聴いたエリサベトは喜びで満たされて、声高らかに応えました、「**あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています**」と。

待降節のロウソクに導かれて備えて来たわたしたちは、喜びの挨拶を始めましょう。御子は、もうすでに、わたしたちの内においでくださっているのです。わたしたちが自分で気づくよりも早く、クリスマスの天使が知っていて、喜びの挨拶をしてくれています。自分では分からなくても、すでに御子をお迎えしている者たちが、クリスマスの挨拶を交わす家、教会に招かれて来ています。

さあ、「おめでとう、祝福されたみなさん」と挨拶を交わしましょう。

「あなたが来てくださるとは！」

今年も御子のご降誕を喜び祝うときを迎えることができました。ここに皆さんをお迎えできたことを、何よりもうれしく思います。

祝いの日、祭りの日には、普段より多くの方がおいでくださいます。ここぞとばかりおいでくださった方もあるでしょう。あるいは、どうしようかと思い悩みながら、思い切っておいでくださった方もあるかもしれません。

このような日に、お一人おひとりとゆっくりご挨拶をすることはできないかもしれません。それでも、わたしたちは、祝いの日に集うお互いの中に、あの人、この人を見つけて、喜ばずにはいられません。「あなたも来てくださったのですね」と直接言うことができなくても、共に祝いの讃美を歌い、祝いの食卓にあずかることを通して、お互いのことを喜び合いたいのです。

御子ご降誕の祝いです。わたしたちは、御子を礼拝するようにと、招かれてきました。御子をお与えくださった御父である神を礼拝するようにと、導かれてきました。ここで、御子の母マリアが歌ったような純粋な魂で、心からの礼拝をささげられるならば、何と幸いなことでしょうか。

もっとも、皆さんの中には、ご自分の魂が純粋なものではないとお考えになられる方もあるかもしれません。祝いの礼拝にはあずかっているけれども、心から御子を礼拝し、神を讃美しているとは言えない、とおっしゃるかたもあるかもしれません。

そうだとしても、皆さんの内には、すでに御子がおいでなのです。御子が宿ってくださっているのです。ご自身で自覚が無くても、ここに集められて来られた皆さんは、一人残らず、御子が宿ってくださっている一人ひとりなのです。

御子の母マリアは、天使ガブリエルの告げる言葉を聞いて、慌ててエリサベトを訪ねました。天使に告げられていたとはいえ、マリアには、まだ、自分の胎に子が宿っているという自覚はなかったのではないでしょうか。むしろ、不安な思いに駆られて、エリサベトを訪ねようと思い立ったのでしょう。エリサベトも子を身ごもっていると、天使に聞かされていたからです。

わが身に子を宿し始めていたエリサベトは、迎えたマリアも子を宿し始めていることを、すぐに気づきました。自分は、祝福された子、御子を宿しているということを、マリアは、エリサベトに教えられたのです。エリサベトに会うことで、知らされたのです。それは、マリアにとって幸いなことでした。それはまた、エリサベトにとっても幸いなことであったに違いありません。

「あなたは祝福された方」

わたしは、ちょうど 40 年前のクリスマスの礼拝で洗礼を受けました。高校 2 年生のときです。五歳上の姉も、二歳上の兄も、高校 2 年生で洗礼を受けていました。母教会の牧師に、そのことを耳打ちされて、よく考えずに洗礼を受けることにしてしまったのです。毎週日曜日の教会には通っていましたし、多くの行事や活動にも参加していましたが、それは、同世代の仲間が大勢いたからです。

牧師に洗礼を受けると答えてから、洗礼式に臨むまでの間、特別な準備会はありませんでした。一度、牧師と面談をして、自分の考えていることを述べただけで、牧師から指導らしい指導を受けることはありませんでした。役員会での試問も行わない教会でしたし、式のリハーサルもありませんでしたから、何も分からないまま、当日を迎えてしまったのです。

その日は、前日から高校生会のお泊り会もあり、風呂にも入らぬままでした。一緒に洗礼式に臨んだのは、熊さんという女性でしたが、その日まで知りませんでした。その方とは並んで立っていたので、顔を思い出すこともできません。そのような状態でしたが、牧師は、わたしに洗礼を授けてくれました。祝福を告げて、教会の交わりの中で一人の信徒として紹介してくださったのです。そのようなわたしが、それから 10 年後に神学校に進もうという思いを与えられて、推薦状を書いてもらうために面談を申し込んだときの牧師の面食らったような表情を、わたしは覚えています。

わたしたちは、ご降誕の祝いへと招かれて来ました。御子のお生まれを祝うため、御子をお与えくださった神を礼拝するために、招かれてきました。

御子は、まだお生まれではないかもしれません。皆さんの前に現れておいでではないかもしれません。けれども、御子は、すでに、皆さんの内においでです。皆さんの胎に宿られています。御子がおいでくださり、心の内に留まってくださっているのです。

わたしたちは、その皆さんをお迎えするとき、心躍るのです。わたしたちの内なる子らが、喜び踊るのです。御子がそこにいらっしゃることを知り、御子を宿した方がそこにいることを知り、わたしたちは、内なる子らと共に、喜び踊るのです。

御子を宿し、御子と共にある、祝福された皆さん。御子と共に、神の子らの喜びにあずかりましょう。御子は、まもなくお生まれです。わたしたちの間でお生まれです。わたしたちの行く道を示すお方として、わたしたちを一つに結びつけるお方として、御子はまもなくお生まれになります。